

## トネテンツキ

*Fimbristylis stauntonii* Debeaux et Franch. var. *tonensis* (Makino) Ohwi ex T.Koyama

### 【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 12。全国的に希少な低湿地性植物で、愛知県でも生育地が少ない。

### 【形態】

1年生草本。茎は細く、束生し、やや扁平で、長さ7~30cmになる。葉は叢生し、線形、幅約2.5mmである。花期は8~10月、花序は複散形状で、枝は長さ2~3.5cm、苞は葉状で2~3個つき、花序より短い。小穂は単生し、長楕円状卵形、長さ3~5mm、直径約2.5mm、黄褐色~赤褐色、鱗片は卵状披針形、長さ1.5~2mm、先端は短くとがる。果実は短い円柱形で長さ約1mm、花柱は宿存性で花後伸長して鱗片より長くなり、そのため小穂は毛に包まれたように見える。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

尾：37b 尾張旭 (小林 70410, 2000-9-7)、  
42c 武豊 (芹沢 85145, 2009-10-3)、45 犬山  
(芹沢 70945, 1994-9-20)、48 春日井 (芹沢  
94676, 2018-10-2)、50 名古屋北部 (高木順  
夫 22133, 2013-8-23)。

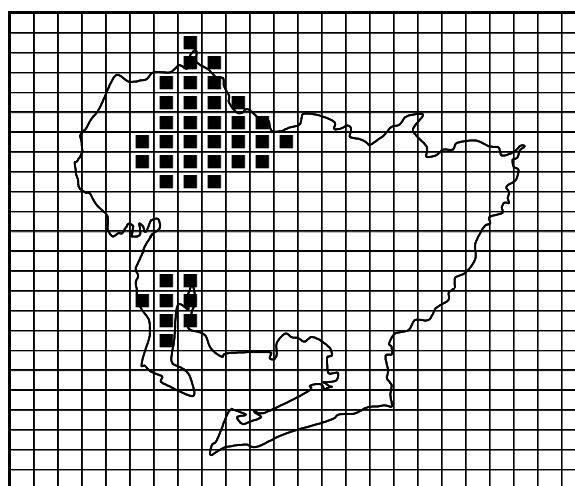
#### 【国内の分布】

本州 (関東地方~近畿地方) にまれに生育する。

#### 【世界の分布】

日本固有。基準変種のハタケテンツキは花後花柱が伸長しないもので、本州 (栃木県)、九州、朝鮮半島、中国大陸に分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

干上がったため池の岸などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

### 【現在の生育状況／減少の要因】

5カ所のため池で確認されている。個体数は年による変動が大きく、水位が大きく低下した年には多数の個体が見られるが、水が引かなかつた年には全く出現しないこともある。ため池の埋め立てや水質汚濁によって生育地が減少し、現在の状態に至ったと思われる。

### 【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物や低湿地性生物の重要な生活場所になっている。現在本種が確認されているため池は、他の植物も多く確認されており、水辺地形や水質を注意して保全する必要がある。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.232, 平草本Ⅰp.174, 平新版Ⅰp.348, 環境省 p.587, SOS 旧版 p.107, SOS 新版 p.119,120.